

## 第155回 河野 節子さん

企画／成田ロータリークラブ Rotary   
写真／アップル写真スタジオ

# 元気の源(みなもと)。

□旧香取郡小見川町(香取市小見川)に代々続く松屋(布団屋)の長女として生まれる。地元で育ち、佐原高校を進む。その後明治学院大学英文科卒業後、英語関係の仕事などに従事する。大学時代の学友と再会して28歳で結婚し、小見川の実家に戻り塾を開設する。29歳で夫と共にボランティアグループ「青空の会」を発足させ、現在も活動を続けている。48歳の時、小見川町議会選挙で初当選。平成30年の香取市議会選挙で7期目にしてトップ当選し、現在も現職で奮闘中である。香取市議会議員、社会福祉協議会小見川中央地区副会長、コウノアカデミー塾長、青空の会顧問(表彰実績・千葉県知事より感謝状・表彰状、財団法人読売光と愛の事業団による福祉活動奨励賞、国務大臣環境庁

〔河野さん〕恵まれた家庭に育ち、特に祖母から可愛がれました。とても社交的で明るい祖母の心根が、今の私に根づいている気がします。中1の時、祖母が亡くなつたことがショックで、結果自立心が芽生えました。英語の先生の影響で、外国のペングフレンドと文通も始め、高校に入つても英語クラブに入部し英語に熱中するようになります。大学でも英語を学ぶ毎日でしたらが、同時に社会の役に立ちたいという思いが芽生えた時期でした。大学3年の時は学生運動が真っ盛りで、大学がバリケードで封鎖され機動隊が突入。そのやり方の理不尽さに対する正義感から学生運動に関わりましたが、組織になじめず、卒業を迎えるました。その後、英語関係の仕事を自由気ままにしながらアメリカを巡る生活

「河野さん」アメリカでの自分探しの旅を終え、日本で生きる目的を見い出せずにいた頃、元学友の新聞記事が目に飛び込んで来ました。明治学院大学時代に全共闘の議長をしていた学友が転向したという内容で、何故かすぐに逢いたい衝動に駆られました。すぐに大阪に向かい再会し、そして転向に導いた元警視の方を紹介されましたが。その方から発せられた言葉が鮮烈でした。「五代も続いた家の長女として生まれたからこそ出来たことに感謝の心もなく、わがまま放題で生きてきたこと、そして誰一人幸せにしていないことを猛省せよ」と檄を飛ばされ、私は体の震えが止まらないほど自分が情けなくなりました。「但し、人間気づいた時から始まるのだから、

河野 節子(こうの せつこさん)  
現在年齢 73歳  
昭和23年(1948年)生まれ  
人生訓:施して報いを願わず、受け  
て恩を忘れず

■ 独身時代は何不自由ない生活だったそうですね。

卷之二

■警視庁の元警視にご主人が導かれ、その方との出会いが人生の道しるべとなつたそうですね。

河野さん、地元に戻り主人は美家を手伝い、私は塾を始めました。大恩人の「感謝と奉仕の精神」の言葉が耳から離れず、一年後には夫婦でボランティアグループ青空の会を結成し活動を始めます。まずはゴミ拾い活動から始まり、施設訪問、少年部の育成、独居老人の集会、そして婦人部も結成。三世代が、それぞれの特性を活かした活動です。更に二歩踏み出し、平成7年に議員としてデビューしました。議員となり、行動力・明るさは更にパワーアップしたと思ひますね（笑）。議会改革は常に目指していくて、令和3年に香取おみがわ医療センター付属看護専門学校に関する特別委員会設置にこぎつけ、議員同士の活発な議論が実現でき、議会の本来あるべき姿を実現できましたと自負しています。誰でも生きていますよかつたと思える社会づくりを目指すため、自分のベースであるボランティア活動を続けつつ、議員活動も両輪で走り続けます。

五代続いた店を支えてくれた人々に感謝し、奉仕しなさい。」と勧まされ、新たな人生をスタートさせることができました。そして後に、元警視御夫婦が仲人となつて結婚し、主人にとつても私にとつても大恩人といえる人生の師です。

A portrait of a woman with short dark hair, wearing blue-rimmed glasses, a dark blue blazer with white piping, and a striped top. A small emblem on her blazer chest reads "CIAO CIAO PICONE".